

Day

2

タイトル

2. SDGsのためのデータ収集  
(1) 廃棄物管理改善のためのデータ収集

発表者

国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員 河井紘輔

本発表は、廃棄物管理を改善するための信頼性の高いデータ収集の重要性について強調し、1) 途上国における廃棄物管理の一般的課題、2) SDG目標11.6および指標11.6.1、3) 都市廃棄物(MSW)の定義、4) 廃棄物発生量の推計方法について、以下のように説明した。

一般に、都市廃棄物(MSW)は公共サービスとして政府によって管理される廃棄物として定義することができるが、各国の定義は、廃棄物の種類(発生源、組成、および危険性)や管理方法(管理の主体、手法、品質)などによって様々であるとし、インドネシアのメダンやベトナムのハノイを例に説明した。

要約

SDG目標11.6「2030年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たり環境上の悪影響を軽減する」のうち廃棄物については、指標11.6.1「都市で生成される廃棄物のうち、定期的に回収し管理された施設で処理される固形廃棄物の割合」として測られる。一般に、先進国の総廃棄物発生量(トン/年)は、管理されていない廃棄物量が極めて小さいため、管理されている廃棄物量にほぼ等しくなるが、途上国では管理されていない廃棄物量は無視できない。指標11.6.1を算出するには、総量と管理されている量を計測或いは推計する必要がある。管理されている廃棄物量は、1人当たりデータ、トラック平均データまたは個々のトラックデータに基づいて推計することができる。総量は、1人当たりデータ、発生源別(家庭、オフィス、店舗、レストラン、ホテルなど)のデータに基づいて推計することができる。一部の発展途上国では、登録されていない人口がかなり多いため、廃棄物発生量に対する非登録人口の影響も見積もるべきである。